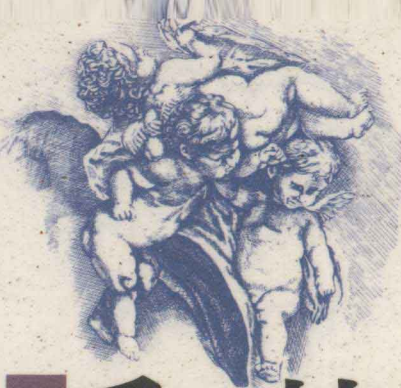


ギリシヤ神話

監修 吉田敦彦
学習院大学教授

2

プシケは、
 美の女神アフロディテを
 しのぐほど
 美しいおとめでした。
 怒ったアフロディテは
 プシケにこの世でいちばん
 卑劣な男を愛させるように
 愛の神エロスをつかわしました。
 しかしエロスは
 プシケに向けて
 放とうとした愛の矢で
 自分自身を傷つけてしまい
 逆にプシケを
 恋するようにな
 るてしまったのです。



愛の神エロスと プシケ



まんがギリシア神話 第2巻

愛の神エロスとプシュケ

監修／吉田敦彦（学習院大学教授）

指導協力／藤井常義（サンシャインプラネタリウム館長）

シナリオ／亜仁真 作画／平松 修

作画協力／手塚プロダクション

カバーイラスト／クリエイティブアートルリュウ

装丁・本文レイアウト／海野幸裕

図版／ED社

写真協力／オリオンプレス

西條善弘

美宝社

ワールドフォト・サービス

編集協力／株式会社 童夢

1991年11月30日 初版発行

定価2000円（本体1942円）送料310円

発行所／株式会社 ぎょうせい

本社／〒104東京都中央区銀座7-4-12

営業所／〒162東京都新宿区西五軒町4-2

電話 03-3268-2141（大代表）

振替口座 東京4-10,000番

印刷／凸版印刷株式会社

製本／大冢製本印刷株式会社

©1991 Printed in Japan

ISBN4-324-02827-3

(3100319-01-002)

乱丁・落丁本はおとりかえいたします。

神話と美術



◆エロスとプシケ／ジェラール
エロスは美の女神アフロディテ
から、プシケを卑劣な男と結婚
させるように命じられました。し
かし、矢を射る時に誤って自分を
傷つけてしまい、エロスは逆にプ
シケを愛するようになってしま
うのです。



◆ナルキッソス／カラヴァッジョ
美青年ナルキッソスは、水面に映った自分に恋し、いつまでもその姿をながめていました。



◆アポロンとダフネ／ベルニーニ
ダフネは、アポロンの求愛をこばんでにげ続けました。アポロンが追いつこうとした時、ダフネの父である河の神は、娘の願いを聞いてダフネを月桂樹に変えました。



◆ペルセボネの掠奪／テラバーテ
冥界の王ハデスは、農業の女神デメテルの娘ペルセボネを、地下の国に連れ去りました。右側の山道には連れ去られてゆくペルセボネの姿が、前景にはデメテルの姿が見られます。

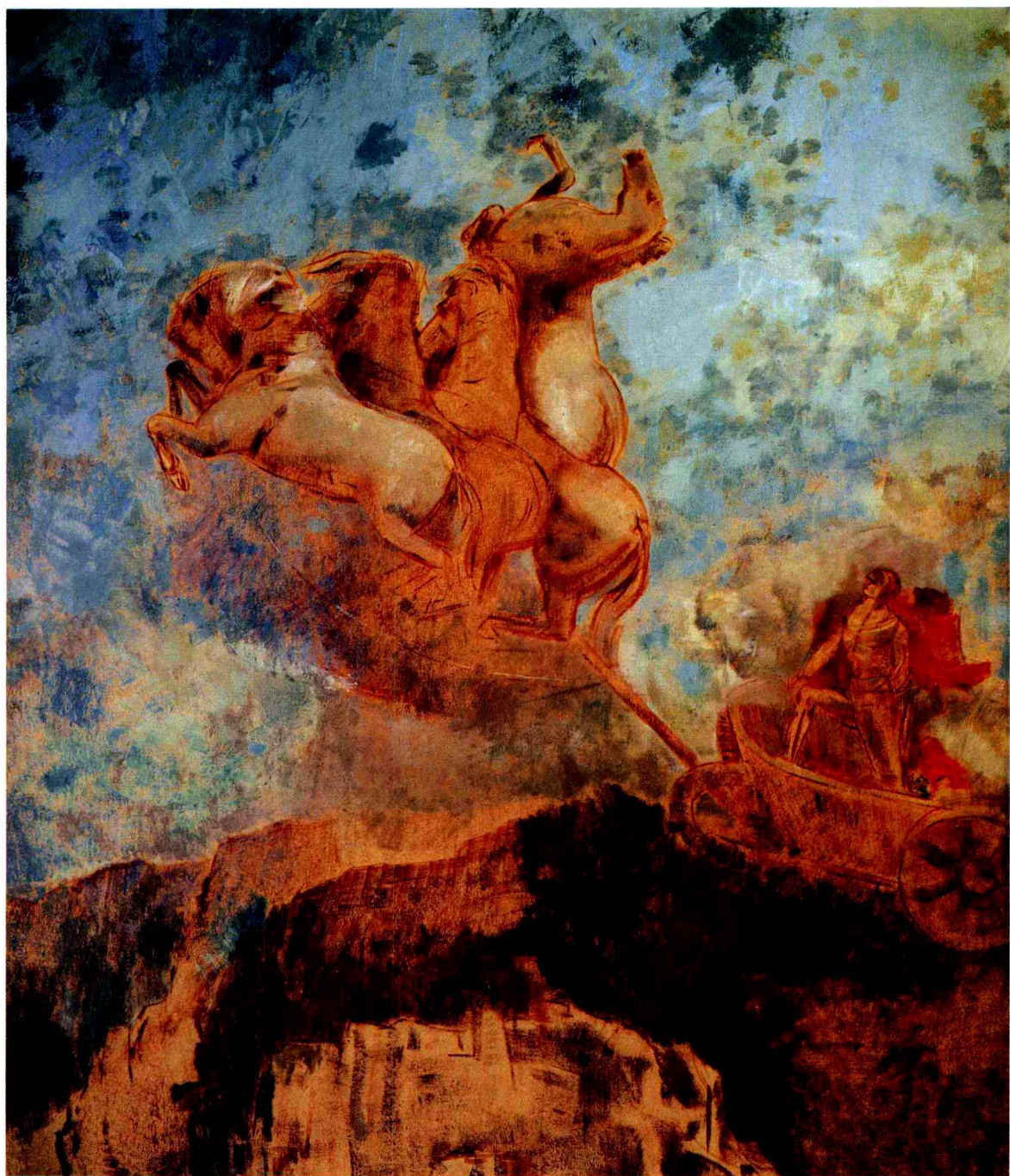




◆太陽神の馬車の噴水／デュビー
フランスのベルサイユ宮殿にあります。太陽神は毎日、黄金の二輪馬車に乗って、太陽を東から西に運んでいました。いっしょに見えるのは、ほら貝を持った海神トリトンとイルカです。

◆エロスとプシケの結婚の祝宴
ローマノ
神がみの会議によって許されたエロスとプシケは、天上で結婚の祝宴を開くことができました。





◆太陽神の二輪馬車／ルドン

パエトンは、黄金の二輪馬車で
天空をかけることを許してほしい
と、しるる父、太陽神に頼みこみ
ます。そして、こわいもの知らず
のパエトンは勇んで出発しました。

まんが ギリシア神話

2

愛の神エロスと
プシュケ

シナリオ/亜仁真
作画/平松 修



はじめに

ギリシア神話とか、ギリシア・ローマ神話とよばれている、たくさんのおもしろい物語があることを、あなた方は、きっともう、どこかで聞か読まかしてごぞんじでしょう。黄金の光でまぶしくかがやく美青年のアポロン神や、海に浮かぶあわのなかで誕生した美の女神アフロディテなど、多くの神様たち、また、怪力で乱暴なところもあるヘラクレスや、勇猛果敢なアキレウスなど、大勢の英雄たちが出てきて、さまざまな不思議な冒険や恋、戦争などで活躍をします。そしてこれらの物語のもとになった話は、今から二〇〇〇年以上も前に、古代のギリシア人が語っていたものでした。

今から二四〇〇年から二五〇〇年くらい前に、ギリシア人たちは、文学や美術をはじめとする学問や、技術など、すべての点で今のヨーロッパやアメリカの文化のもとになった、本当にすばらしい文化を作り上げました。それを、「ギリシアの奇跡」とよんだ人もいます。

この古代ギリシア文化は、今から二三〇〇年くらい前に、有名なアレクサンドロス大王がした遠征によって、今のトルコやエジプト、イスラエル、シリア、レバノンから、イラク、イラン、アフガニスタン、パキスタンなどにまでまたがる、広い地域に伝えられました。そしてその文化は、今から二〇〇〇年くらい前にローマ帝国を作った、古代のローマ人たちにも、そっくりそのまま受けつがれたのです。

古代のローマ人が使っていた言葉は、ラテン語といって、ギリシア語とは別の言葉でした。しかしローマ人たちは、ギリシアの文化

のすばらしさにあこがれて、その魅力^{みりょく}のとりこになりました。そしてローマ人たちは、美術や文学、哲学^{ていがく}やそのほかの学問でもギリシアのものを模範^{もはん}と考えたのです。さらにローマ人たちは、ギリシア人が持っていた神話も、ただ神様などの名前の大部分を、ギリシア語からラテン語の呼び方に変えただけで、そっくりそのまま自分たちのものにしてしまったのです。

このようにローマ人によっても、自分たちの神話だと考えられ、ギリシア語だけでなく、ラテン語でも語られるようになった、古代ギリシア人の神話のことを、ギリシア・ローマ神話とよんでいるのです。そのため、そのなかでは、ちよつとやつかいなことですが、多くの神様や英雄^{ゆうゆう}たちは、ギリシア語とラテン語のふた通りの、別の名前を持っています。本書で使っているのは、全部、もとのギリシア語の名前のほうです。

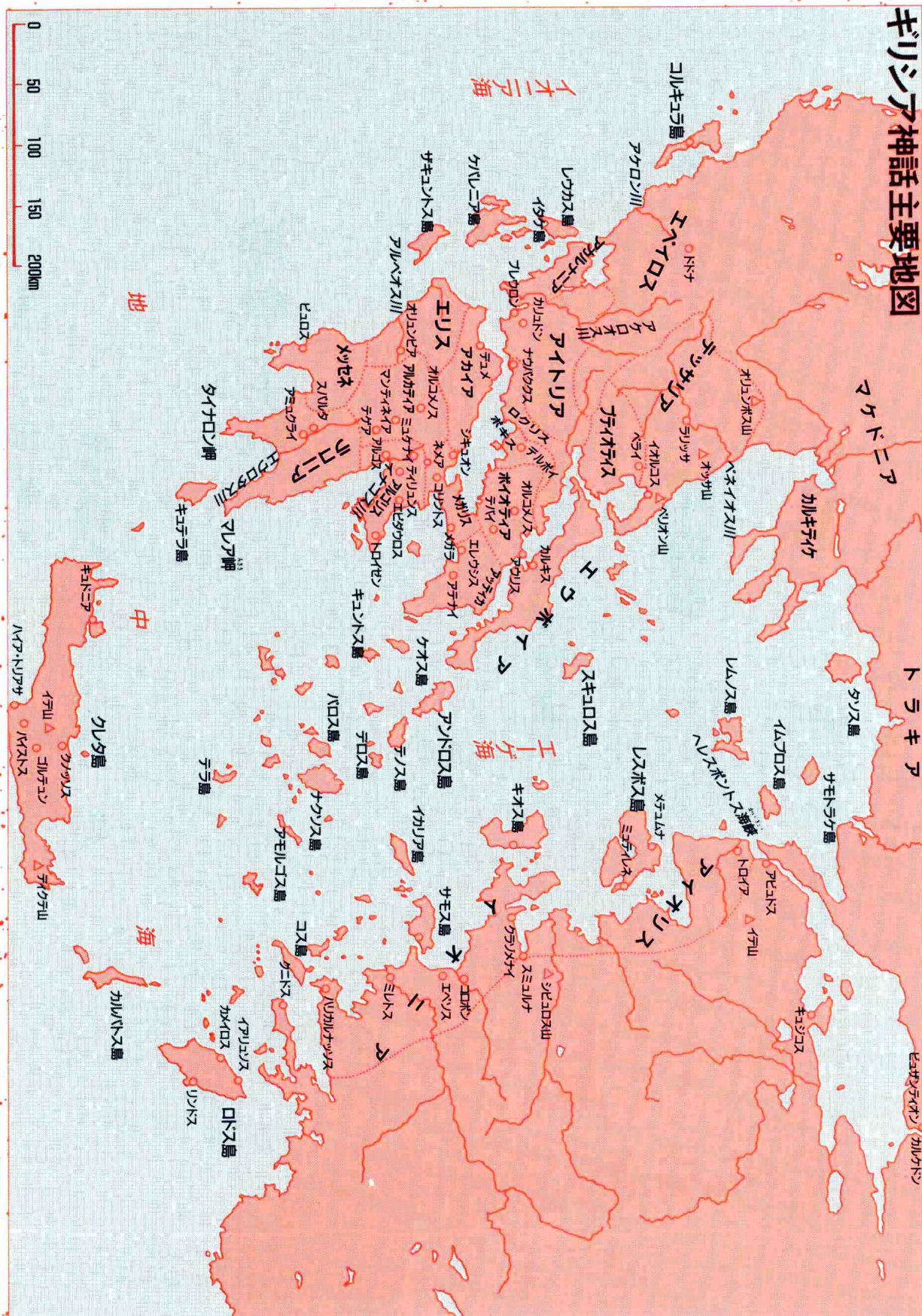
ギリシア・ローマ神話は、その後ヨーロッパの文化のなかにも、受けつがれました。ヨーロッパやアメリカの人たちは、今でもギリシア・ローマ神話を、キリスト教と共に自分たちの文化の土台になった、とても貴重な財産と考えて、大切にしています。

美術をはじめ、文学や音楽あるいは映画など、芸術のどの分野でも、ギリシア・ローマ神話を新しくえがいたり、物語ったり、またそれからヒントを得たりした作品が、ヨーロッパでは昔から多く作られてきましたし、今もヨーロッパやアメリカで、たくさん作られています。そして下じきにされたギリシア・ローマ神話の物語を知らないままで、これらの名画や名曲、名作を鑑賞^{かんしょう}しようとする、わたしたちはしばしば、それこそまるで、くつの上から足のかゆいところをかいているような、物足りなさともどかしさを、感じさせられてしまいます。

それだけではありません。一九六九年に初めて人間を乗せて月に着陸したロケットの名前が、アポロー一号だったことを、ごぞんじの人も多いでしょう。この名前はもちろん、初めにあげたハンサムな光と芸術の神、アポロンにちなんでつけられたものです。アメリカやヨーロッパで作られる品物には、このほかにも、乗り物や兵器から日用品にいたるまで、ギリシア・ローマ神話の神様や英雄の名前をつけられたものが、たくさんあります。これはもちろん、ヨーロッパやアメリカでは今でも、そのような名前のついた品物が、だれにでも自然に、神話の神様や英雄のようにすばらしく魅力的であったり、強力であるように感じられてしまうからであるにちがいません。このことから、ギリシア・ローマ神話が今もヨーロッパやアメリカの人たちにとっても愛され、自分たちの神話として大切にされて、本当になじみの深いものであり続けていることが、よくわかります。

こうしたことから、ヨーロッパやアメリカの人たちの文化と、ものの考え方をよく理解しようとする、わたしたちはどうしてもギリシア・ローマ神話を知る必要があるのです。この本は物語をよりわかりやすくするために、「まんが」という形式をとりました。話を視覚化することによって、おとなだけでなく、小・中学生にも入りこみやすいものになっています。さらに本書は、ギリシア神話をくわしく正確に見せ、語っており、信頼できる手引きとなっています。これを持って、すばらしい未知の世界発見の旅に出て、ギリシア神話通になってください。

ギリシア神話主要地図



愛の神エロスとプシユケ 目次

神話と美術

1

はじめに

6

第二章 アポロンとダフネ

12

第二章 パエトンの二輪馬車

36

第三章 エコーとナルキッソス

66

エコー、ナルシスト

81

第四章

ペルセポネ

ミナ四季

119

92

第五章

巨人オリオン

120

第六章

愛の神エロスとプシユケ

152

神話と星座

190

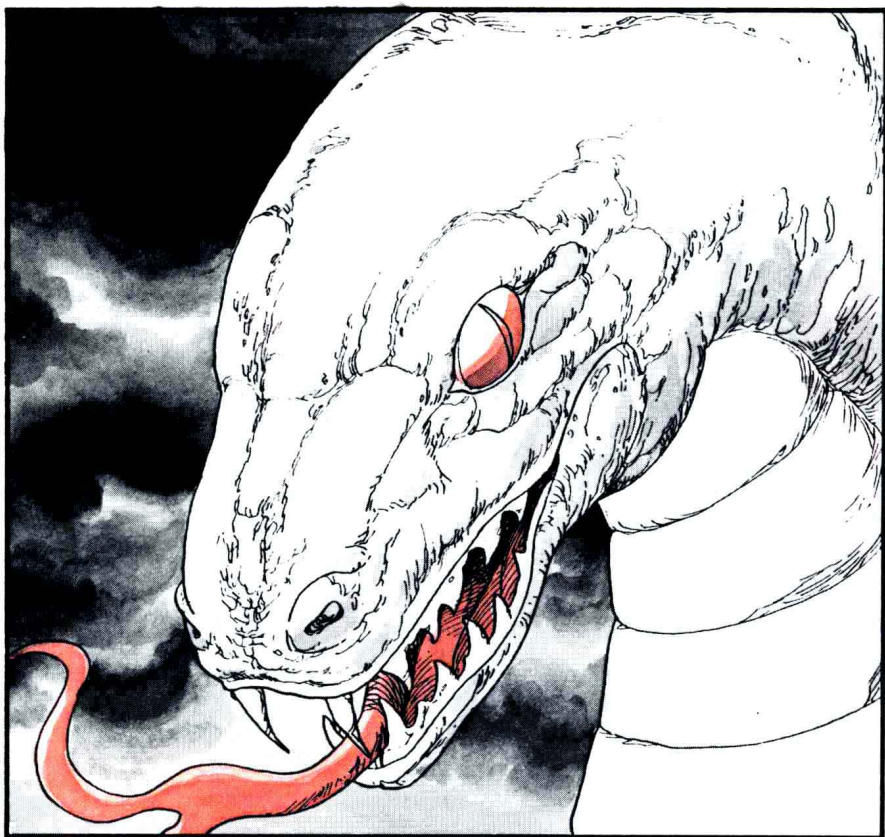
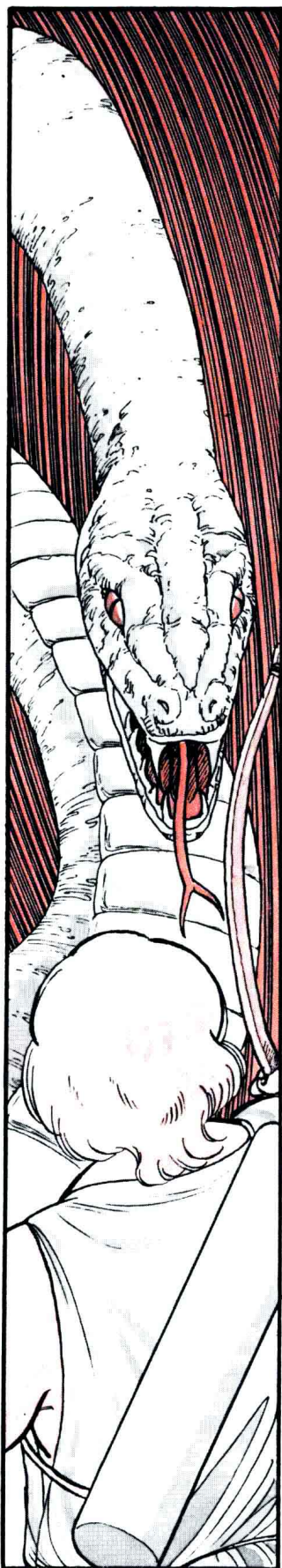
神話と文学

194

第1章

アポロンとダブネ





デルポイにあった
大地の女神ガイアの
神託所は、
ガイアの子である
大蛇のピュトンによって
守られていました。
予言の力をあたえられた
アポロンは神託所を
自分のものにするため、
ピュトンをたおさなければ
なりませんでした。

◆デルポイ ギリシア中部にそびえる、パルナッソス山の南側の斜面にある聖地。

神託所 神のおつげを人間に伝える所。

神託こそ
アポロンに
あたえられた
役割だった
のです。

おろかな
ピュトン!!
それしきの力で
このアポロンを
しめ殺せると
でも
思っているのか!

